

編集室

広島土砂災害に思う

この8月20日未明に広島市北部で発生した土砂災害で、亡くなられた方々に心よりご冥福を申し上げます。また、被災され避難生活を余儀なくされておられる方々に対しお見舞い申し上げます。広島県災害対策本部の9月2日の発表では死者72名、行方不明2名で、当初の報道を大きく上回る大災害になってしまいました。

県医師会も20日に平松会長、山田常任理事を中心に緊急連絡会議を開催し対応を開始しました。13チームのDMAT、広島県災害時公衆衛生チーム、広島県DPAT(災害派遣精神医療チーム)、広島県子ども支援チーム、災害救助犬(33頭)に係るボランティア団体等の方々支援活動をされ、継続しているチームもあり感謝いたします。

この災害報道で今まで知らなかった事についていろいろ驚かされました。今回の土砂流出の多くは、花崗岩が風化してできた砂の堆積した「まさ土」の地盤が地質的原因の1つだそうで、花崗岩と言えば御影石を思い浮かべる私は、御影石が色違いの馴染みある「まさ土」になるとは知りませんでした。昔から庭に入れる土は「まさ土」がほとんどで、割合に水はけが良く腐葉土を混ぜたりして手軽に利用していました。また、この土は関西より西に多く広島県は48%の面積がこの地盤からなっているそうで、広島県は土砂災害危険箇所が日本全国で最多の3万カ所以上指定されているとは驚きです。その内、土砂災害警戒区域(イエローゾーン)に指定されているのは3分の1で、土砂災害特別警戒区域

(レッドゾーン)の指定に関しては、被災地区の大半が未指定との報道にびっくりさせられました。これでは地質学的知識のない素人の県民が、居住又は居住希望する場所がどの位危険な所かを把握できる情報がありません。15年前の教訓が生かされていなかったと批判に出てくる広島豪雨災害は、佐伯区八幡川橋で1時間に81mmの記録でしたが、このたびは安佐北区三入東では1時間最大121mmで、安佐北区三入の19日11時から20日6時までの総雨量が243mmと約3倍で本当に恐しい雨量でした。なお1時間あたりの雨量の目安として、50ミリを超えると全く傘が役に立たなくなり車の運転が困難な状況になり、80ミリを超えると人体は息苦しさを覚え圧迫感を感じるようになるそうです。

実際に確かめてはいませんが、安佐南区八木地区は、昔は一带が「蛇落地悪谷」(じゃらくじあしだに)と呼ばれ、由来は「竜のはねた首が落ちた場所」が蛇落地で竜は水の神様なので大雨が度々降り、水害が多く悪谷と呼ばれていたそうで、現在は「八木上楽地芦谷」から「八木三丁目」などと名前が変えられ、「住んでは駄目な所だが利益優先の不動産屋はそんなことは言わない」と報道されていました。

各種の報道を見ていると、県や市が積極的に危険性を訴え、指定地区からの移転を促すわけでもなく、土地売買に規制を掛けるわけでもなく、不動産屋も売れて儲かれば良いわけで、結局は自己責任だという現実がたまりません。

(土屋 隆宏)

広島県医師会速報 2014年(平成26年)9月15日

- 発行所／一般社団法人 広島県医師会 〒733-8540 広島市西区観音本町一丁目1番1号 TEL 082-232-7211 FAX 082-293-3363
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail: kouhou@hiroshima.med.or.jp
- 編集者／広島県医師会会長 平松 恵一
(広報委員)山中 祐介、小園 亮次、高路 修、佐々木 達、佐々木 龍司、谷 充理、中尾 三和子、平林 直樹、
正岡 良之、吉田 良順、小笠原 英敬、水野 正晴、岩崎 泰政
- 印刷所／レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL 082-844-7500 FAX 082-844-7800